体験談②——末期の前立腺がんを克服した患者の立場から——

オレ流ゲルソン療法で末期の前立腺がんを克服

松井　清さん（福島県）

松井清さんがゲルソン療法を始めたのは、がん告知を受ける半月前にさかのぼる。次女がITヘルパーをしていたロマリンダクリニックで、富永院長から情報を得ていたことがきっかけだった——。

9000を越えていたPSA値が1カ月で880台に！

松井さんは、1998年、57歳のとき、前立腺がんの病期D期で余命半年と告知された。骨、骨盤内リンパ節への転移による強い痛みもあっ

ケアに移行することを勧められる。しかし松井さんはこれを拒否。

「病院で死ぬのは嫌だ、自分の家で死にたいと言ったんです。ゲルソン療法をやりたくても、入院してたらできないでしょう」

農学部の出身で、動物薬メーカーに勤務していた松井さんは、栄養に関しての知識が豊富だった。ゲルソン療法の基本的な考え方を知ったときも、「これは理屈に合った治療法だ」と納得できたという。そしてそう思えたことが、厳しいゲルソン療

減少。その後も順調に
た。この結果に、自分の
かったとの確信を得るこ
という。

夫の末期がん告知に精
てしまっていた奥さんに
んじんジュースや食事の
が担当。次女はがんに関
る情報を調べ、闘病をサポ

「玄米も最初はなかなか
なかったので、五穀米か
た。つらくなかったと言
りますが、家族みんなで
食べてくれましたから、
思いやりに心が動かされ

ホルモン剤、健康食
併用しながらいい状